

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 5 年 6 月 6 日現在

機関番号：14401

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2022

課題番号：18K00041

研究課題名(和文) 発展途上国における教育開発のための哲学プラクティス

研究課題名(英文) Philosophical Practice for Educational Development in Developing Countries

研究代表者

望月 太郎 (Mochizuki, Taro)

大阪大学・大学院人文学研究科(人文学専攻、芸術学専攻、日本学専攻)・教授

研究者番号：50239571

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,800,000円

研究成果の概要(和文)：哲学プラクティスを途上国で教育開発に応用するためプノンペンで「哲学カフェ・カンボジア」を現地の協力者と共同で運営し、1) ファシリテーターを養成するトレーニング、2) 民俗伝承集成『カテローク』の読解を通じたクメール哲学研究、3) 「僧侶のコミュニティの森」のフィールド調査、4) 子どもの哲学のデモ・セッション等の活動を行い、それらの手法の「現地化」の方法論とノウハウを蓄積することができた。研究期間中COVID-19パンデミックとミャンマー政変のため予定していたミャンマーへの活動の普及が頓挫したが、オンラインセッションを実施し、またタイで行われているデス・アウェアネス・カフェの調査研究に着手した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

哲学を国際協力に役立てるにはどうしたら良いか、という問いに対して、本研究の成果は研究と実践を通して応答するものである。哲学は先進国の占有物ではない。むしろ途上国こそが哲学を本当に必要としているという事実を、今回の調査研究と実践を通して再確認した。途上国における最大の課題はコラプション(汚職・腐敗)である。途上国に哲学プラクティスを普及し、批判的思考が市民に共有されることを通じて、また次世代を担う若者に哲学教育の機会を提供し、教育開発を行い、現地で哲学を実践することは、この課題の解決への一助となると信じる。

研究成果の概要(英文)：For the purpose of applying philosophical practices for educational development in developing countries, I and my local team in Cambodia have achieved the planned goals through our activities at 'Philosophy Cafe Cambodia' in Phnom Penh as follows: 1) Local facilitator training; 2) Study of Khmer philosophy through the reading of Cambodian folklore, Gateloke; 3) Fieldwork in Monks Community Forestry Cambodia; 4) Demonstration of philosophy for children at schools. Thus, we could cultivate the methodology and know-how for indigenizing those philosophical practices in Cambodia. We couldn't accomplish our planned activity to expand philosophical practices to Myanmar due to COVID-19 pandemic and the coup-d'etat happened on the 1st February 2021, though we managed to carry out some online sessions thereupon instead. We also set about the work on Death Awareness Cafe in Thailand.

研究分野：哲学・倫理学

キーワード：哲学プラクティス 哲学対話 哲学カフェ 問いの技法 子どもの哲学 教育開発 国際協力 途上国

1. 研究開始当初の背景

(1) 研究代表者は本研究の開始に先立つこと数年来、東南アジアの後発途上国の一つであるカンボジアで哲学プラクティスの普及を目指し、同時に現地で実践者を育てるため、現地で「問いの技法」や哲学カウンセリング等に関するセミナーやワークショップ、そして哲学カフェや哲学ウォークを企画・開催し、また子どもの哲学のデモンストレーションを小・中学校等で実施してきた。

(2) 途上国では社会の隅々まで「汚職・腐敗(コラプション)」が蔓延り、この問題に取り組む次世代の若者を育てる道德・市民性教育への期待が高まっている。先進国で哲学教育に携わる者は、そのようなニーズに対してどのような仕方で国際協力することができるのだろうか。途上国が必要としているのは、この種の問題を解決する能力を育てる教育開発のために、実際に役立つ哲学・倫理学の教育である。この問いが本研究を開始した以前より、元々の問題意識としてあった。

2. 研究の目的

(1) 東南アジアの後発途上国であるカンボジアとミャンマーにおける政治と社会の「汚職・腐敗(コラプション)」を構造的暴力と捉え、その構造を理解するために役立つ哲学プラクティスのローカルなあり方を実践を通して探求し、現地化することを目指す。

(2) 両国の哲学教育研究者と協力し、「問いの技法」をはじめとする様々な哲学プラクティスを実践しながら共同研究を行い、東南アジア諸国の精神風土に適した形でその土地に導入、現地化する。そのために大陸部東南アジアで共有される上座部仏教に固有のスピリチュアリズム、アニミズム、世俗のフォークロアから、現代の民主化運動までを考慮しつつ、各種の哲学プラクティスのローカルな適応を試みる。

(3) 哲学プラクティスを教育カリキュラムとして定着させるために、現地の教育機関で実践的な調査研究を行うとともに、哲学カフェを通じて活動の市民社会への実装を試みる。

(4) 後発途上国においては国民的アイデンティティー形成のために必要である、「クメール哲学」や「ミャンマー哲学」といったローカルな哲学的思考が今後、どのように広域的なレベルで可能な「東南アジア哲学」の中に組み込まれ、究極的には従来の西洋哲学や東洋哲学と同じグローバルな水準で論じられ得るものとなるのかについても理論的な検討を行う。

3. 研究の方法

(1) プノンペンでこれまで開催してきた哲学カフェ(「哲学カフェ・カンボジア」)の活動を継続、常設化する。カフェで論じるトピックとして「汚職・腐敗(コラプション)」に関連する問題を次々に取り上げて、学生と市民を交えた討論の機会を設ける。関連する具体的なトピックとしては、種々の構造的暴力の問題(例: 性的マイノリティーに対する差別)についてディスカッションを行う。また、その中で現地の学生及び教員がファシリテーターとして持続的に活動できるよう、「問いの技法」をはじめとする種々の哲学プラクティスのファシリテーションに関する技能を獲得するためのセミナーを企画・開催する。

(2) カンボジアの民話集成である「カテローク」の読書会を現地の学生と共同で行い、その研究を通じて世俗の道德観を明らかにするとともに、

(3) 森林破壊が深刻化している地方で活動を行う「僧侶の森・カンボジア」に見られるような、現代社会において実践される上座部仏教のあり方をフィールド調査を通して探ることにより、世俗的道德と宗教的世界観の織り成すクメール哲学の実像に迫る。

(4) プノンペン市内のインターナショナルスクールでこれまで行なってきた子どもの哲学のデモンストレーションを継続する。またカリキュラムの調査を行うとともに、教育の現場を視察する。これらの活動を通じて哲学プラクティスの現地化を進めるとともに、その方法論を理論的に抽出する。

4 . 研究成果

(1) 研究期間中、COVID-19 が世界中に蔓延し予定していた海外出張が出来なくなり、現地で哲学プラクティスを普及、共同研究するための活動は一切行えなくなり、「哲学カフェ・カンボジア」は閉鎖を余儀なくされた。そのため旅費として計上していた予算を当初予定の最終年度を越えて繰り越すこととなった。その間、ミャンマーの研究協力者を含む現地の教員・市民と共同でソクラティック・ダイアログと問いの技法の方法論に関するオンラインセミナーを実施した (Saturday Philosophy Talk: Ways of Life, 'Socratic Dialogue as a Method of Questioning in Philosophical Practice', Prof. Taro Mochizuki, 19 December 2020, Zoom)。

(2) 並行して旧知の研究協力者である Peter Harteloh (エラスムス哲学プラクティス研究所、ロッテルダム、オランダ) と共同で哲学対話 (主として哲学カウンセリング) の質評価指標についての共同研究 (オンライン) を行い、その成果を国際学術雑誌に公表した。

(3) 当初の最終年度であった第 3 年度末に、報告書 (望月太郎著『発展途上国における教育開発のための哲学プラクティス』特定非営利活動法人 ratik、2021 年 2 月 1 日刊) を編集、発行し、これまでのカンボジアでの活動を総括した。なお詳しい研究成果について、この報告書において述べたので参照されたい。

(4) その後、研究実施期間の延長 2 年目に漸く海外渡航が再び可能になり、EuroSEAS 2022 (国際学会) に参加し、これまでの活動及び研究成果について報告を行った。

(5) 加えて、タイにおける哲学プラクティスの展開に関して予備調査を行い、バンコク都内に常設され多彩な活動を実施している Death Awareness Cafe の訪問、インタビュー調査を、阪大 ELSI センター所属の研究者と共同で今後、継続して実施する運びとなった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 4件 / うち国際共著 3件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 Taro Mochizuki	4. 巻 Vol.5-No.2
2. 論文標題 A History and Tradition of Philosophical Practice in Japan	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal of Human Cognition	6. 最初と最後の頁 36-45
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.47297/wspjhc\SP2515-469903.20210502	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Peter Harteloh, Taro Mochizuki	4. 巻 10
2. 論文標題 Quality Indicators for Philosophical Practice: Self-reflection as Sign for Deapth of a Dialogue	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Philosophical Practice and Counselling	6. 最初と最後の頁 141-159
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 望月太郎	4. 巻 49-1
2. 論文標題 哲学プラクティスを通じた開発途上国との国際協力	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 185-196
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Taro Mochizuki and Peter Harteloh	4. 巻 Vol.10-No.1
2. 論文標題 Reading the Correspondence between Descartes and Princess Elisabeth from the Viewpoint of Philosophical Counselling: Introduction and Research Questions	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of Humanities Therapy	6. 最初と最後の頁 151-167
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 望月太郎	4. 巻 1
2. 論文標題 発展途上国における教育開発のための哲学プラクティス～国際協力と哲学へのニーズ：カンボジアでの実践から～	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本哲学プラクティス学会機関誌	6. 最初と最後の頁 58-62
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計5件（うち招待講演 0件／うち国際学会 3件）

1. 発表者名 Taro Mochizuki et al.
2. 発表標題 Histories of Philosophy in a Southeast Asian Perspective, Laboratory(Part1/Part2), organised by Lara Hofner and Preciosa Regina De Joya
3. 学会等名 EuroSEAS 2022, European Association of Southeast Asian Studies, Paris, EHES, 29 June-1 July2022 (国際学会)
4. 発表年 2022年～2023年

1. 発表者名 Taro Mochizuki
2. 発表標題 Southeast Asian Philosophy as Arena of World Philosophy
3. 学会等名 Philosophy of Religion in Southeast Asia, Persatuan Pendidikan Falsafah dan Pemikiran Malaysia, PPFPM (国際学会)
4. 発表年 2021年～2022年

1. 発表者名 Taro Mochizuki
2. 発表標題 A Japanese Philosopher 's View of SEA during the WWII Time: The Philippines Through the Eyes of Kiyoshi Miki (1897-1945)
3. 学会等名 Philosophy in Southeast Asia, PiSeAS2, Persatuan Pendidikan Falsafah dan Pemikiran Malaysia, PPFPM (国際学会)
4. 発表年 2021年～2022年

1. 発表者名 望月太郎
2. 発表標題 発展途上国で哲学対話を「現地化」する：カンボジアでの取り組みから
3. 学会等名 大学評価学会
4. 発表年 2019年～2020年

1. 発表者名 望月太郎
2. 発表標題 カンボジアにおける教育開発のための哲学プラクティス
3. 学会等名 大学評価学会第16回大会（神戸大学発達科学部）
4. 発表年 2018年～2019年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 望月太郎	4. 発行年 2021年
2. 出版社 特定非営利活動法人ratik	5. 総ページ数 176
3. 書名 発展途上国における教育開発のための哲学プラクティス	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>発展途上国における教育開発のための哲学プラクティス https://tm1.ratik.org 「腐敗（コラプション）」とたたかう哲学：大阪大学大学院文学研究科・望月太郎教授インタビュー https://ratik.org/8129/20171111/</p>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
オランダ	Erasmus Institute for Philosophical P			
カンボジア	プノンペン王立大学	パンニャサストラ大学		
ミャンマー	ヤンゴン大学			
タイ	チュラロンコン大学			